

普通科生物121班

生ごみは使い物にならないだろうか、いやなる

班員 飯干瑛太 尾川貴仁 那須悠大

指導者 野崎久美子先生 岩室貴詞先生

研究の動機

コストを抑えて野菜を育てれるのか気になったから。

研究の目的

生ゴミから作った肥料と購入した肥料をそれぞれ比べる。

コンポストとは

家庭からでる生ごみや落ち葉などの有機物を、微生物の働きを活用して発酵・分解させ土として使うこと
この実験では野菜をメインにコンポストを行っている。

研究方法

・コンポストを作成する

・苦土石灰を使用しているものとコン ポ ストを使用したもの2つを用意し ほうれん草の育ち具合を見る

・毎朝水をあげて育てる

・日照時間などの環境要因は差がないようにする

・実験を1度失敗して時間が足りなかったなので、芽が出た時期、葉の 大きさ、色で比べる

必要な道具

・プランター・ジョーロ・肥料

・黒土・生ごみ

・コンポスト基材・スコップ

・ほうれん草の種

仮説

・生ゴミは肥料的な栄養価があるので生ゴミ(コンポストしたもの)を入れたら肥料の成長度合いに近づく。

結果

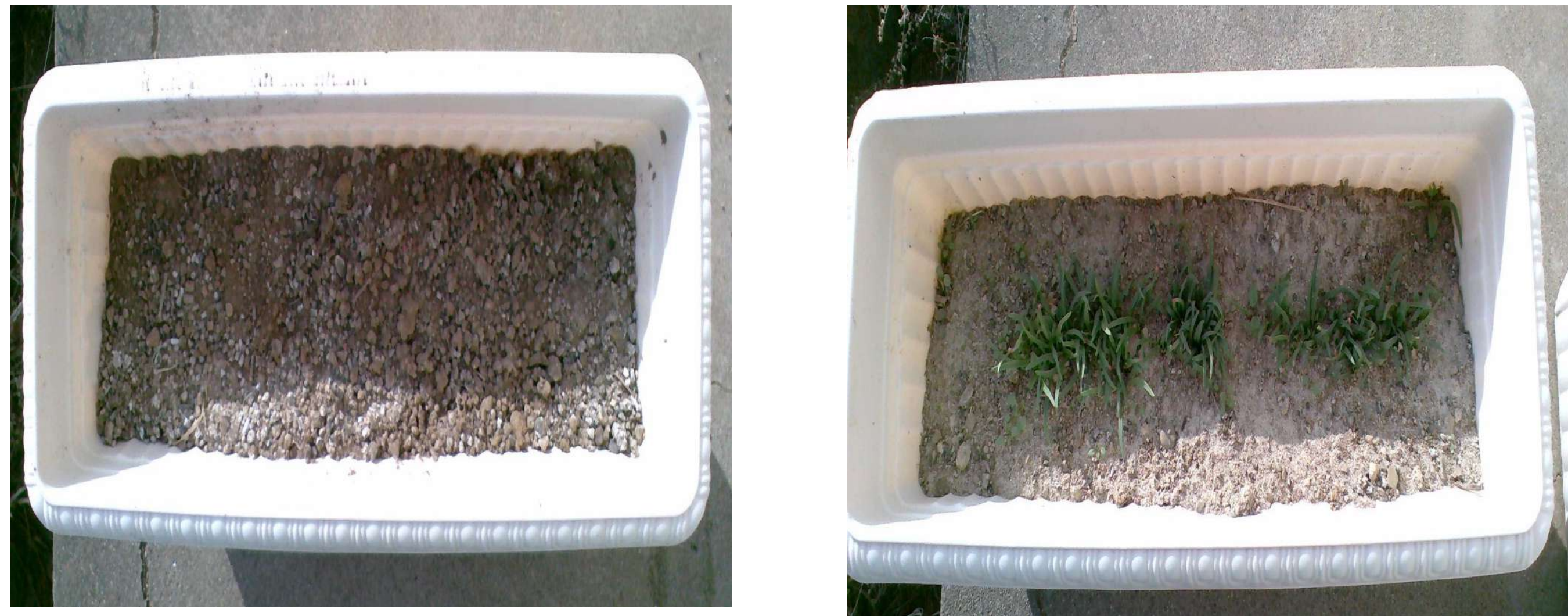
	大きさ	芽が出た時期	色
市販の物	-----	――	黄緑
コンポスト	2週間 3cm 3週間 5cm	種を植えてから1週間	濃ゆ緑

結論

苦土石灰で芽が出てこなかった

考察

調べたらほうれん草は1週間ぐらいで芽が出てくるらしいので一般的な肥料と野菜メインで作ったコンポストの成分は似ていると考えられる
苦土石灰で芽が出なかったのは土壌の性質を変える肥料だったからではないか
コンポストの方の色が濃ゆい緑になったのは硝酸過多によるものとする
市販の物 コンポスト



参考文献

<https://www.pref.tottori.lg.jp/236845>.
鳥取県生ごみコンポスト